

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設と考えるのではなく、入居者の生活の場であると常に考え、家庭的な雰囲気を大切に生活する事を事業所の理念としている。また、ホーム独自の理念・地域密着型としての理念も作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に運営理念の職員全員の理解に取り組んでいる。会議、申し送り日常会話、また介護の実践の中で取り組んでいる。ホーム内にも各所に掲示して常に目を通せるようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会への参加働きかけ、ボランティアの受け入れ、ホーム通信の配布、運営推進会議の開催等にて理念の浸透に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩にて顔を合わせた時には挨拶をかわし、ホームの菜園で採れた野菜のおすそ分けをして、季節感を共有している。また、近隣の家にホームの通信を配り、理解を深めていただけるように努めている。	○ これまでの活動も継続、今後はより気軽に立ち寄ってもらえるように、手作りの看板・掲示板等を作成し工夫していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に会員として登録し、敬老会にも積極的に参加している。	○ 自治会の行事に参加するだけでなく、こちらも地域の方が参加できる行事を計画していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の民生員の方を通して、高齢の方の相談にも応じている。また、ボランティアの受け入れ、見学、相談も行っている。	○	自治会との関わりを通し、介護教室等の計画実施を検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘事項に呈しては、即座に質の評価の意味を理解し全職員にて検討、サービスの改善に生かすよう対応している。	○	今後も同じ様に対応して、指摘事項がなくなるようにしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な方々により多方面の意見・助言にて幅の広いサービスの向上に生かすことが出来ている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター・市町村の主催する行事に積極的に参加して、多くの方と接し情報交換を行っている。また、区役所の方ともかかわりを持ち情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に制度の活用を進め制度を活用される方もいる。そのことにより司法書士の方とも接する為、制度について学ぶ機会を持つことが出来ている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市町村よりのアンケートには必ず回答、相談窓口のチラシの掲示、研修にも参加しホーム内でも研修を行い、防止の徹底に努めている。	○	同じ様に継続して防止の徹底に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に契約に関する内容を文書及び口頭にて、分かりやすく十分説明し、納得・同意を得ている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に窓口情報の記載をしており、文書及び口頭にて説明してる。また、2ヶ月に一度介護相談員の受け入れを行っており、そこで挙げられた意見等を反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	報告書似て毎月、出納帳にて年に1度・開示要求時、口頭・文面にていずれも報告している。また定期的なホームの通信を報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に第三者機関のの窓口情報の記載をしており、文書及び口頭にて説明をしている。また、第三者を交えた話し合いをもつなどして相談機会を確保、意見を反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の採用・入居者の受け入れ等の運営方法については、簡単な説目・事項にADL表に目を通してもらい意見を取り入れている。職員会議等常に話し合いの場を設けるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて職員を増減したり、業務がスムーズに流れるように配慮しローテーションを組む様にしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	普段より他の階の勤務を行うよう調整し、全ての利用者の方と馴染みの関係になれるようににて、ダメージを防ぐ配慮をしている。また、離職の際には事情等に配慮し事前に伝える様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時のオリエンテーション、段階的・必要に応じて助言、指導行っている。また、法人	○	漢語も積極的に法人内外の研修に参加し、人材の育成に取り組んでいきたい。
20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修・意見交換会等に積極的に参加して、情報交換行いサービスの質の向上に努めている。		
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム内の親睦会、法人内他ホーム職員との親睦会等にて、工夫した環境作りに取り組んでいる。また、外者と接する機会があり、スーパーバイザーの導入をしている。		
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的・随時の昇進、昇給、賞与にて向上心が持てる様に行っている。	○	今後は儒教をみながら有給休暇のより多くの消化を図れる様に行っていきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階において本人の求めていることの把握・不安な事があれば不安の除去に努め、本人を受け入れより良い信頼関係作りに繋げている。	○	今後も初期段階より信頼関係を築き、安心して生活して頂けるよう努める。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階において本人の求めていることの把握・不安な事があれば不安の除去に努め、家族を受け入れより良い信頼関係作りに繋げている。	○	今後も初期段階より信頼関係を築き、安心して頂けるよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に即必要としている支援があれば{(例)リハビリ等}その把握・利用の対応に努めている。	○	以前は訪問リハビリ利用しがいたが、現在は他のサービス利用者はいない。今後即利用が必要と思われる方があれば対応に努める。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の性格・好み等を家族より把握し、家庭的な雰囲気の中で日々の生活を通し馴染みながら本人を理解出来る様、努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の会話の中で、知恵・知識を学べる場面を自然に作れる様、常に本人の立場に立つ事を心掛け支援している。	○	これからもこれまでと同様に、常に本人の立場に立ち、本人を尊重した対応を心掛けてとりくんでいきたい。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の報告書による状況報告、必要に応じて電話による相談、また面会時家族への声掛け等を行い、情報の共有似て共に支えていく関係をきずいている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	相談・契約時に、家族構成・関係性の情報収集を行っている。また面接時の家族への声掛け等を行い、情報の共有にて共に支えていく関係を築いている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族より、馴染みの人や場所を確認し把握を行い、本人訴え時等に手紙・電話・必要であれば現地に向かう様にしている。	○	今後も必要に応じて対応していきたい。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の交流が図れるよう、散歩に行くなど一緒に過ごせる時間を作り、お互いいたわりの気持ちにより助け合う時は、安全確認・見守りを重複して、お互いに声を掛け合い支援する様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体状況等改善され他施設に移られた方でも、気軽に顔を見せにこられている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で自己決定の場があり、どんな場合においても入居者の意志を尊重して、意向の把握に努め希望に応じて対応している。困難な場合は、日々の表情や反応の変化をいち早く把握して対応している。	○	今後も自己決定の場を大切にし、それらを促す取り組みを行っていききたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を下に一人ひとりを尊重した対応をしている。また常に新たな情報を家族より収集し、より深い把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのペース・リズムの把握、そのことを考慮して体調等一人ひとりの意思を尊重し、支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者に対しては随時、家族等に対しては面会時などにお話しをして意見を取り入れ、介護計画を作成している。	○	今後もより良い暮らしを続けられる様、それぞれの意見を反映して本人本位の計画を作成したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間終了毎に見直し、品かに応じた見直しを含め3ヵ月毎に行い、新たに作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録と介護計画を同じファイルに綴じ、常に目を通せるようにし、情報の共有を行い統一されたケアが行える様になっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方の方で宿泊の希望が事前にあれば、食事・入浴の準備を行い宿泊できるよう対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員等いくつかの地域資源とは協力しながら支援できている。	○	今後は、文化・教育機関とも協力していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は利用者の方から訴え等は聞かれない為、他のサービス利用は行っていない。	○	今後意向・必要性が見られれば、利用も検討していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、必要性が無い為、協働はしていない。	○	今後必要性が出てくるようであれば協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な月2回の往診、また24時間対応してくれる医師がいる。また、故坊野医療機関に受信出来る様支援もしている。	○	これからも、適切に連絡を取り合い支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な往診、月に1度の精神科の往診にて、状況に応じた療養上の注意点の指導・助言を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・利用者の入院時は、病院の看護職員に病状、注意点を聞いている。・現在は看護側はならず、地域の看護職との協働もない。	○	地域の看護職との連携に努めていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には面会を多く行い、その都度情報交換を行う様にしている。また、緊急時には連絡して頂ける様に連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人は出来るかぎり、家族・往診医・ホームにて話し合い、意見の共有と徹底を図っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	話し合いの中で意見の共有と徹底を図り、状態の変化が見られればすぐに往診医連絡にて支持を仰ぐ事で支援に取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅で使用していた物等、できるだけ馴染みの物を持ち込んでいただき、これまでと同じ様な雰囲気作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の言葉に耳を傾け、言ってることを否定せず尊重した対応を行っている。	○	個人情報の取り扱いには十分注意していたが、介護日誌の記載にて面会者等で固有名詞が記載されていることもあ る為、今後は固有名詞を記載しない様に十分に注意して 記載する。
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりに合わせた対応にて、常に相手の立場に立ち思 いを共感し、希望・意思を考え支援している。		
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のリズム・ペースを把握、考慮して本人の意思を尊重、希望に沿って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訴え時には本人の望む利用・美容院へ行く様にしている。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り・調理方法・片付け(食器拭き)準備等に関しては出来る限り一緒に行っているが、食事に関しては同じ物を食べたはいるが、利用者の状況等もあり一緒にとれない事もある。	○	今後は、方法等検討しできる限り行っていきたい。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	時と場合により個々の状況に合わせて支援できている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、定時。随時にて、トイレ誘導・さり気ない声掛けにて対応している。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を基本とするが状況や本人の希望に合わせて随時実施しているタイミング、温度等は一人ひとりに合わせている。	○	今後も、一人ひとりに合わせて行っていきたい。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠のパターンを把握し、府民ン男訴えが聞かれれば、日中の活動量を増やしたり、訴えに耳を傾け、精神的な安定を図るなど対応している。また、状況により医師とも最も適した睡眠策を相談している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割であれば食器拭き・洗濯ものたたみ、楽しみであればカラオケ・将棋・囲碁・気晴らしであれば散歩等、自らが感じられる場面ができる様に支援している。また、介護どの思い方に対しても声掛けの工夫にて、表情の変化により楽しみを引き出せる様支援している。	○	今後も、一人ひとりを折り多く把握しその人らしい日々を送れるよう支援していきたい。
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力・希望にて金銭管理は支援している。一人ひとりの状況に応じて、家族との相談により、ホームにて管理している方もいる。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩等、積極的に支援している。一人ひとりの嗜好に合わせてカラオケなどのレクリエーション、外食会、食事が難しい方にはおやつ(デザート)を食べに外出などの個別支援の機会を持つようにしている。	○	今後も、個別支援等より多く行っていきたい。
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力にて外出したり、バスハイク等にて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙の利用訴え時、こちらからの働きかけにて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、あいさつ・お茶等にて歓迎している。また、ゆっくりとお話し出来る様、椅子・テーブルを用意している。歓迎の雰囲気の中で家族wお迎えている。遠方の家族はホーム内で宿泊していかれる方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく実践する為にホーム内外の研修にて、全員の職員が身体拘束の具体的な行為を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後も積極的にホーム内外の研修に参加し、より理解を深めること絵お徹底していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在施錠は夜間防犯の為にのみ行っており、日中はセンサーを設置しているが施錠は行っていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定期的・随時のラウンドにて所在確認・身体状況の把握・安全の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとり必要な物が違ってくる為、危険と思われるものに接する事のないように見守りを強化している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時等の対応について、ホーム内外研修を行う。また、ホーム内の目の付く場所にマニュアルを設置してある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新しい職員が入ってきた時、また年に1・2度は全職員にてアニュアルの読み返し等を行っている。	○	今後も同じように行っていき、ホーム外研修にも参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日ごろより避難方法について話す様にしている。防災訓練時参加を呼びかけている。	○	地域への声掛けは継続、職員間においては日ごろだけでなく定期的に話し合いをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	問題があった時だけでなく、観察等にて問題が起こりそうな時には家族とよく話し合い、最善の対応策を考える様にしている。	○	今後も家族との良い信頼関係の為、話し合いを多くとっていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサイン・随時体調の変化を必ず記録、品かが見られれば直に往診医に報告・指示を受けるようにしている。	○	状態の把握に常に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指導・薬剤情報により、効能・副作用を理解し、一人ひとりの薬に名前・日付けを書き入れ、医師の指示通りの内服。症状の変化の確認が出来る様に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食事、水分摂取、マッサージ、適度の運動にて便秘の予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後、また適時、口腔ケア(うがい・歯みがき・ガーゼにての消毒)口腔内チェック必ず行い、清潔保持・誤嚥防止等起きない様に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	およそ高齢者の摂取カロリーである1200～1400キロカロリーとなるような食事バランスを心掛けている。又、水分は食事と10時15時その他随時に摂っており、摂取量も把握している。管理栄養士のもと一人ひとりに応じた対応をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時の感染症の有無の確認、往診医による検査などに実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器の洗浄・ふきん・まな板・包丁などの消毒を心がけ、清潔を保つようにしている。消費・賞味期限の確認、調理方法には十分に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎朝必ず掃除を行い清潔を心がけ、四季の花々を飾り家庭的で温かみのある雰囲気を作るようにして、地域に溶け込めるように配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画・草花を飾り、テーブル・椅子は温かみのあるものを利用しているまた、廊下には外出時の写真を張り出している。光・音・に関しては、自然の光を多く取り入れ、カーテン等にて調節、様々な音には常に気をつけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブルなどゆったりとくつろげる家具を置き、自由に過ごせる空間としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ家具を持ち込んでいただき、安心でき居心地よく過ごせる空間としている。	○	今後家具の持ち込みは自由な為、出来るだけ使い慣れたものを持ち込んでいただく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気を心掛けている。入居者の衣類の調節・エアコンの温度調節・湿度の管理(加湿器)等、過ごしやすく衛生的な環境を整える様努めている。また、居室のエアコン等に関しても本人の承諾の上職員が昼夜共に管理している。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターの設置、バリアフリー設計(手すり・風呂の滑り止め・段差なし等)、そのほかハード面に関しても出来る限り一人ひとりの身体状況に合わせて整えている。	○	ハード面に関して後付けもできる限り工夫していただきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に清潔・衛生を心がけ、見慣れた生活を維持出来る様配慮している。居室・トイレ・各所(一人ひとりに合わせ)にさりげない名札や目印の設置にて、分かる・理解する力を生かせるよう工夫している。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	あ		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

あすみが丘という静かな住宅地にあり、近隣には、公園やホームの目の前に自然が広がる、恵まれた環境にあります。そのため、気軽に散歩に出かけたきりでき、ホームの庭で机とテーブルを出して、おやつを取るだけでも、自然に感じる事が出来ます。利用者の方が一人ひとり安心して安全に生活でき、ホームが大きなひとつの家族のような家庭的な雰囲気の中で生活できるように支援しています。利用者の方は、入居時は介護度が軽度であっても、状況の変化により、介護度が重度になることもあります。経口摂取が出来る限り寝たきりの方も対応しています。その点で、人的「介護力」があるとおもいます。介護の質は、介護スタッフの質だと考えられます。スタッフ一人ひとりが、基本的に利用者の方がいかにこのホームで安心して、快適に生活できるのかを、常に考えながらケアにあたれば、おのずとよいホームになっていくと思います。ただ、今後も、さらにより良いホームづくりができるように、頑張っていきたいと考えます。